

せいしょ かくいんし  
《聖書》ルカによる福音書 1:39-56

## いつくしみ

「いつくしみ」という言葉は、非常に  
広い意味を持っていて、「愛」、「あ  
れみ」、「恵み」の意味にも使われます  
が、特に大切なのは契約との関係です。  
契約を結んだ者同志が相互に決められた  
事に「忠実」をつくす意味も含んでいま  
す（サムエル記下2:5）。

聖書で繰り返し出てくる事は、神が先  
祖に約束した事を必ず守るとという言葉で  
す。神がイスラエルの民を選んだという  
申命記の個所で、「契約」と「いつくし  
み」を並べて使っているのもこのため  
です（7:9, 12）。いつくしみとは、契約を  
必ず実行するという神の愛なのです。

神は両親が子どもを罰するように、そ  
の民を罰されます。これは決して神が誓  
われた約束を忘れてしまったからではあ  
りません。自分の選んだ民を正しく導く  
ためです。神のいつくしみとは、ただ人  
の機嫌をとる事とは違います。それは旧

約のイスラエルの歴史を見れば明らかで  
す。たとえ自分が愛された民であっても、  
又、わざわざエジプトの地から導いて約  
束の地に入れた民であっても、その地か  
ら追い払われるのです。

しかし、たとえ民がいましめを守らず、  
土地から追い出されても、神は契約を破  
る事はしません（レビ記26:40-45）。

## マリアの賛歌

マグニフィカトとして有名なマリアの  
賛歌では「憐れみ」と訳されていますが、  
イエスが神から遣わされる事により、神  
が契約に忠実である事をたたえています。  
この賛歌の中で、神が力のない者を助け、  
権力ある者をくたくたとして描かれてい  
ます。

神はいつくしみを忘れる事がありませ  
ん。私たちがたとえ忘れてしまってい  
ても、神はいつも私たちを導いておられる  
のです。聖書を通して私たちは救いの歴  
史を学びます。そして、この同じ神が私  
たちのうちに働いておられるのです。

せいぼ ひしやうてん さいじつ たきの  
聖母の被昇天の祭日（滝野）